

- 内水面外来魚密放流防止体制推進事業（抄録） -

福井克也・後藤悦郎・森山勝

島根県の河川、湖沼において生息域を拡大しているオオクチバス並びにブルーギルに加え、新たに移入される恐れのあるコクチバスについて、漁業権河川における生息・分布を明らかにすると共に、既にこれらの外来魚種が移入・定着してしまった河川・湖沼における資源抑制のための駆除方法について検討を行う。なお詳細は「平成11年度内水面外来魚密放流防止体制推進事業報告書」に報告されているので、ここではその結果の概要について述べる。

1. 生息状況調査

県東部の漁業権河川である神戸川並びに斐伊川で、外来魚種の生息について聞き取り調査と捕獲調査を実施した。

結果の概要

(1) 神戸川

神戸川では、上流部の来島ダム湖内から河口部にかけて、オオクチバスが生息していることが確認された。

(2) 斐伊川

斐伊川では、10月下旬に中流域の阿井川との合流地点付近でブルーギル1尾が捕獲され、斐伊川中流域でのブルーギル生息が確認された。

2. 駆除試験

昨年度に引き続き県内の漁業権設定河川の内、最も多くオオクチバス、ブルーギルが生息していると思われる江川において実施した。本年度は刺し網を用いた効果的な駆除方法の調査・検討と、産卵親魚並びに稚仔魚の駆除を主目的とした。

(1) 産卵親魚並びに稚仔魚の駆除

ダム湖内の透明度が50cm程度しか無く、オオクチバス若しくはブルーギル親魚及び産卵床は確認できなかった。また、稚仔魚についても捕獲することはできなかった。。

(2) 刺し網を用いた効果的な駆除方法の調査・検討

5回の調査でオオクチバス41尾、ブルーギル76尾を捕獲した。オオクチバス、ブルーギル共に捕獲される場所の地形・植生等にいくつかの特徴が見られ、外来魚の駆除を行う際は、地形・植生等と、オオクチバス、ブルーギルの行動について考慮して刺し網を使用すれば効率的にオオクチバス並びにブルーギルの駆除が行えると考えられた。

(3) オオクチバス、ブルーギルの食性

調査で駆除したオオクチバス、ブルーギルの食性について調査したところ、オオクチバスは魚類又はエビを主に捕食しており、捕食率54.4%、空胃率45.6%であった。ブルーギルについては、空胃の個体は全く見られないが、胃内容物の殆どが餌料として価値の無いと考えられる植物片で占められていた。餌料価値のあると思われるものについてみると、主に水生昆虫を捕食していた。